

「子どもたちにはグローバル対応力が必要」76.47%の親が「強く」感じていると回答 「必要」と感じている人を含めると91.18%

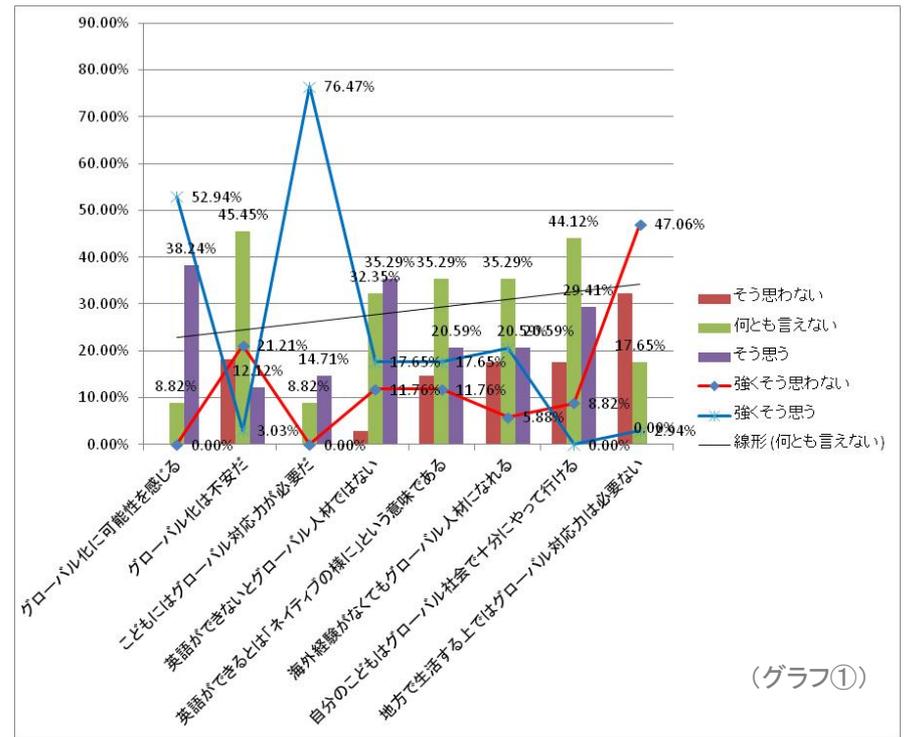
小学生から高校生までの子どもを持つほとんどの親が「子どもたちにはグローバル対応力が必要」(91.18%)と感じている。
反面、自分の子どもがグローバル社会で間違いなくやって行ける自信を持つ親はなく、どうにかやって行けると感じている親が29.41%
26.47%の親は不安感を持っており、グローバル化に可能性は感じているものの(91.18%)将来への不安が見て取れる。

そのようなこともあり、グローバル化に可能性を感じると同時に、比較的不安に感じている親が大半を占める(60.61%)。

英語がグローバル人材の基礎素養だと考える親が52.94% 　ただ必ずしもネイティブの様に話せる必要はなさそうだと感じている親が多いことも見て取れる。このことは海外経験がなくてもグローバル人材になれると感じている親が41.18%いることにも関係しているのかも知れない。

今回の調査は鹿児島市及び周辺地域在住者を対象としたものだが、都市部・地方部などの居住地区の差なく、グローバル対応力が広く人々に求められると大半の親が感じている(79.41%)ことも分かる。

次代を担う子どもたちのグローバル対応力を育成する手法の提供が必要とされる。



(グラフ①)

(表①)

質問	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
① グローバル化に可能性を感じる	0.00%	0.00%	8.82%	38.24%	52.94%			
② グローバル化は不安だ	21.21%	18.18%	45.45%	12.12%	3.03%			
③ 子どもにはグローバル対応力が必要だ	0.00%	0.00%	8.82%	14.71%	76.47%			
④ 英語ができないとグローバル人材ではない	11.76%	2.94%	32.35%	35.29%	17.65%			
⑤ 英語ができるとは「ネイティブの様に」という意味である	11.76%	14.71%	35.29%	20.59%	17.65%			
⑥ 海外経験がなくてもグローバル人材になれる	5.88%	17.65%	35.29%	20.59%	20.59%			
⑦ 自分の子どもはグローバル社会で十分にやって行ける	8.82%	17.65%	44.12%	29.41%	0.00%			
⑧ 地方で生活する上ではグローバル対応力は必要ない	47.06%	32.35%	17.65%	0.00%	2.94%			